

GRASP-Japan の活動地域



INDONESIA

ギニア共和国（一部コートジボワール共和国）

ボツソウ・ニンバ保護区

伝統的にチンパンジーを保護してきたボツソウ村と、隣接する世界遺産のニンバ山では、生息地の分断化が大問題です。二つの森をつなぐ「緑の回廊」計画が進行中です。最近、呼吸器感染症により、個体数が激減し、人と野生動物の接し方への対応も急務です。

インドネシア共和国

クタイ国立公園

インドネシア政府と日本人研究者の協力で、長年にわたりオランウータンの保護活動を行ってきました。森林の盗伐、オランウータンの密猟、森林火災のパトロールを継続しながら、隣接する地域にあらたな国立公園を設立するための予備調査を進めます。

コンゴ民主共和国

ルオー学術保護区

20世紀に入ってから発見された「最後の類人猿」ボノボのための保護区。過去30年にわたり、日本人研究者が世界に先駆けて研究と保護の活動を進めてきました。長引く内戦で傷ついた村人の生活を支え、人とボノボの共存をサポートします。

ウガンダ共和国

カリンズ森林保護区

サルを食べない村人たちの文化に支えられ、人とチンパンジーがとなりあって生活する地域です。自然の価値を理解してもらうための環境教育、森を守ることが村人に利益をもたらすエコツアーリズム計画で、将来にわたる共存をサポートします。

ガボン共和国

ムカラバ国立公園

類人猿をはじめとする保護動物の密猟をなくし、自然と共生するための活動を推進するために、公園周辺の人々が環境学習できるコミュニティーセンターを創設し、エコ・ミュージアム活動を推進します。

コンゴ民主共和国

カフジ・ビエガ国立公園

同地域に共存するゴリラ、チンパンジーや保護動物の密猟をなくし、自然資源の非破壊的利用を推進するために、環境教育学級、苗木センター、アートセンターを運営し、以前国立公園内に居住していた狩猟採集民の自立支援活動を推進します。

タンザニア共和国

マハレ国立公園・ウガラ地区

世界的に有名なマハレ国立公園と、チンパンジー分布の最東端であるウガラの乾燥林。ここでは、人類起源を追跡する上で学術的に貴重な環境です。この地域における違法伐採や密猟の問題に取り組み、新動物保護区の設立計画をつくります。

AFRICA